

2026

7

令和8年7月1日  
No.752

広報

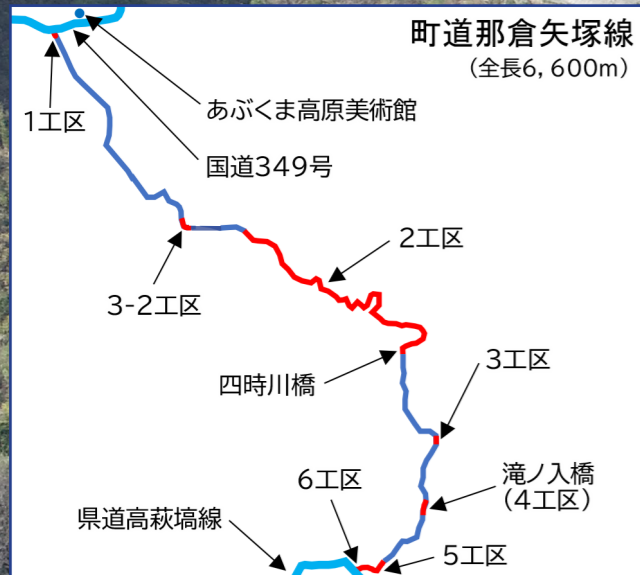
おなたと町をつなぐ情報誌

# はなわ

## プールあそびがたのしいな

6月10日(水)、B&G海洋センタープールで、はなわこども園幼稚園部と笹原幼稚園の園児たちによる交流プール遊びが行われ、園児たちは元気いっぱい、笑顔でプール遊びを楽しみました。





# 「風の町はなわ」 実現のための 大きなステップ

## 町道那倉矢塚線道路改良

**風車輸送のための道路改良。  
 利便性や安全性が大幅に向上**

町道那倉矢塚線(全長6,600m)の道路改良工事(全6工区)が行われ、道路拡幅、カーブ緩和、舗装整備、橋の新設など、通行の利便性や安全性が大幅に向上しました。

これは、インベナジーが出資する茨城塙ウインド合同会社(東京都千代田区)が行っている、「茨城塙風力発電事業」により、片貝字長久木国有林、茨城県北茨城市・常陸太田市に、出力4,200kWの風力発電機(風車)19基が設置されることに伴い、ブレード(風車の羽根の部分・1枚当たりの長さ約59m)やタワー(ブレードなどを支える構造物・高さ約115m)を運搬するために行われ、6月末までに完工しました。

これに先立ち、同じく風車の輸送ルートとなっている県道高萩塙線(矢塚地区)の道路改良工事も行われ、令和7年10月に供用が開始されています。

なお、町と事業者との協定により、道路改良工事費用の町負担分はありません。

**風力発電事業は新たな段階へ。  
 町の地域振興に大きな期待**

町道那倉矢塚線の道路改良工事の完工により、風力発電事業は新たな



**「木の町はなわ」・「花の町はなわ」  
 +「風の町はなわ」の実現へ**

そして、改良された道路のアクセシビリティ・利便性・安全性を生かし、風車群の眺望による観光客の増加も期待されています。これは、「湯遊ランドはなわ」などの既存観光施設への誘客にもつながる可能性があります。

令和10年4月予定の風力発電商業運転に向け、「山水花のまちづくり」、「木の町はなわ」、「花の町はなわ」に加え、「風の町はなわ」という新たな魅力向上、地域振興の実現のため、町としてこれから施策を進めていく考えです。

本事業における地域振興策としては、「建設・操業期間中の地元企業の活用」、「保守管理技術者の地元雇用」、「管理棟を活用した小・中学生への環境教育の場の提供」、「地域社会活動への積極的な参加」の大きく分けて4つの提案を事業者から受けています。

現に、工事関係者の皆さんが宿泊などで「湯遊ランドはなわ」が利用されるなど、地域経済への波及効果も現れています。将来的には、雇用創出やエネルギーの安定供給、子どもたちの環境教育としての活用が期待されています。



那倉区長  
小峰節夫さん

風力発電事業による道路整備で悪路が解消され、あぶくま高原美術館から大平地区までの所要時間が半分以下になるなど、利便性が格段に向上しました。那倉区にとって非常にありがたく、心から感謝しています。

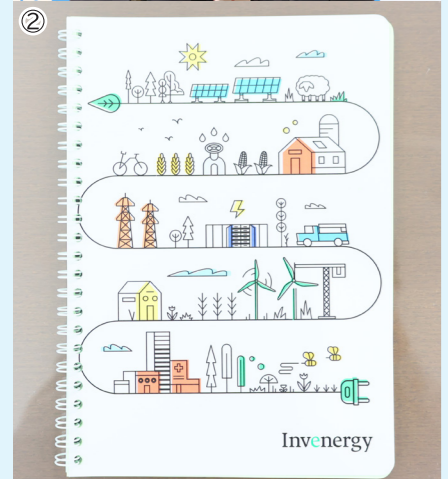


矢塚区長  
藤崎進一さん

今回の道路整備により、町道那倉矢塚線や県道高萩瑞線の利便性が向上し、いわき方面への移動時間も大幅に短縮されました。ふるさとカフェ矢塚分校のいわき方面からのさらなる集客に大きな期待を寄せています。

### ノートと鉛筆を寄贈

インベナジー・ウインド合同会社 技術部長 北村晃彦さん(写真①左)が4月22日(水)、町役場を来庁され、藤成寛味教育長(写真①右)に、ノート(写真②)A5サイズ320冊、鉛筆(写真③)B・2本1組330セットを寄贈されました。寄贈されたノートと鉛筆は、町内小学校の児童たちに配付されました。



完成前



完成前



完成前





町に残り続けるレガシー(遺産)を生かし、地域振興の青写真を描き始めています

埴町長  
宮田 秀利

みやた ひでとし MIYATA Hidetoshi



さんに還元できる段階となりました。このような立派なものを作っていただき喜ばに堪えません。

風車の完成も楽しみにしております。これまでの間、御社のご対応に町民を代表して心から感謝を申し上げます。

大屋 弊社の事業は、風車設置の適地を見つけて、地元の方々に話をさせていたいただいて、ご協力、ご理解を得て初めて成り立ちます。

まして弊社は、外資系で名前も横文字で誰にも知られていないような会社でございます。

そのような弊社に対して、町長さんをはじめ職員の皆さんには、この事業を当初からご理解、そして伴走していただき、さまざまな局面で本当にサポート、ご協力していただいたことに感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

町長 こちらこそ、この10年の中で、町道那倉矢塚線の大規模な道路改良、この事業が完了できたことは、町にとって、非常に大きいプラスの効果であります。

この道路改良を町で取り組もうとしたら、財政において非常に難しいことはも

# 山水花+風の町

## 広報対談

大屋 「茨城埼風力発電事業」は、平成27年から、10年以上の長い期間をかけて段階的に準備・調整を進め、このたび町道那倉矢塚線・県道高萩埴線(矢塚地区)の道路改良工事が完成し、一つの節目を迎えることができました。

これも、御町と工事施工者である戸田建設さん、そして弊社と三人四脚でここまでこれたのかなと考えております。

本日は、今回の道路整備を振り返りながら、町長さんいろいろとお話を伺え

町道那倉矢塚線、県道高萩埴線(矢塚地区)の道路改良工事が完工し、一つの節目を迎えた「茨城埼風力発電事業」。

5月26日(火)、宮田秀利町長と大屋昌之インベナジー・ウインド合同会社上級副社長が、町道那倉矢塚線の工事状況を視察した後、役場庁舎応接室で対談を行いました。

大屋 今、町長さんがおっしゃったように、拡幅によってすれ違いが容易にでき利便性が向上したということで、道路の視認性も向上し、利便性だけではなく安全性の向上にも寄与させていただいたものと理解したところでございます。

実際に町長さんに町民の皆さんからの声が届いておりますでしょうか。

町長 当初は「こんなものが出来上がるのか」。実際に姿が見えない分、そのように思ってしまう方も多々いらっしゃ

ったのではないかと思っております。しかし、実際に道路ができ、幅員が広がるとも通りやすくなった、「こんなにきれいにしてもらえるとは思っていなかった」など、皆さんには大変喜んでいただいております。

大屋 ありがとうございます。工事期間中は町民の皆さんにご不便をおかけいたしました。このようにおっしゃっていただき、我々としても本当にホッとしております。

今回の道路整備は、御町にとつてどのような意味を持つものだとお考えでしょうか。

町長 この道路整備は、風車の資材を運ぶための一過性のもではなく、未来の町に残り続ける「確かなレガシー(遺産)」であり、地域の過疎化を防ぎ、定住や交流を支える強固な基盤を手に入れることができたと考えております。

大屋 町長さんがおっしゃったとおり、今回の道路整備は、具体的な形として御町に残るものですが、今後、茨城埼風力発電所などの関わりを含めて、御町をどのような町にしていきたいとお考えでしょうか。

町長 今後建設される風車、そして新しくなった道路を生かし、地域振興の青写真を描き始めております。観光の呼び水として、風車を見渡せる見晴らしのいい高台の場所のセッティングをしたいと考えております。

また子どもたちに、省エネ、脱炭素のための立派な施設を見学してもらい、環境学習をする、そのような教育もあっていいと考えております。

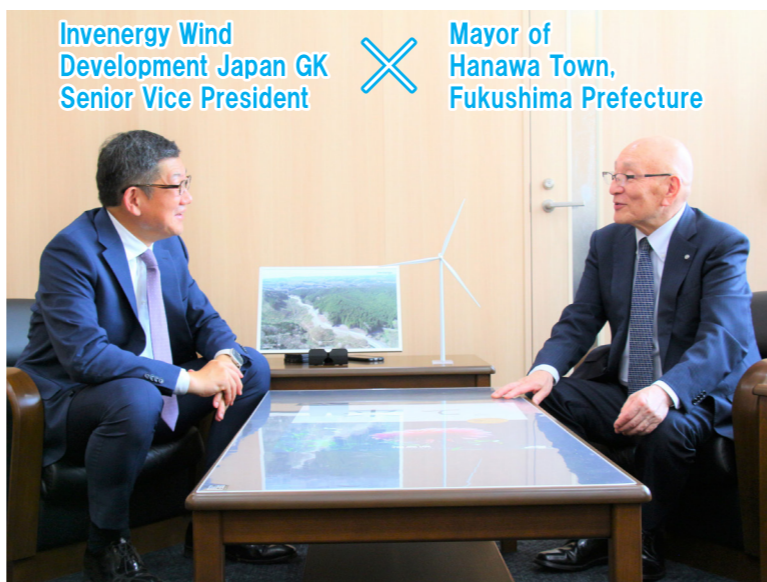
ちるんのこと、5年、10年あるいは20年先の仕事になってしまいます。工事施工においても、その丁寧さ、できるだけ迷惑をかけないという誠実さ、そして、我々に対しても低姿勢で常にオープンで接していただいております。この信頼関係はしっかりと継続して町の財産としていきたいと考えております。あらためて感謝を申し上げます。

大屋 そのようにおっしゃっていただき、我々事業者として非常にありがたい。弊社の事業に対してもご理解いただけただことに本当に感謝しております。その期待に応える仕事を今後も続けていかなければならないと考えております。

道路が改良されて、町民の皆さんの暮らしや日常という観点からどのような点が改善されたとお感じでしょうか。

町長 道路の大変狭い箇所は、大型車などのすれ違いのためにストレスや危険がありました。

今回、改良が行われたことで幅員が広くなり、走りやすくなったことで、沿線町民の皆さんの日常の買い物や通院など、移動の利便性・安全性が大幅に向上したものと感じております。



Invenergy Wind Development Japan GK Senior Vice President

Mayor of Hanawa Town, Fukushima Prefecture



地域の皆さんに心から感謝いたしますとともに、これからも丁寧に歩んでいきます

インベナジー・ウインド合同会社

上級副社長

大屋 昌之

おおよ まさゆき OYA Masayuki



埴町役場

大屋 素晴らしいですね。弊社としても、安全に工事を進め完工し、その後の10年、20年と長きにわたって操業を続けていく中で、御町の地域振興に、何らかのかたちで貢献していきたいと考えております。

町長 よろしくお願いたします。また、これを機に、町のキャッチフレーズも検討しております。

現在は、「山水花のまちづくり」というたっておりますが、今後は「山水花と風が織りなす安らぎの里」、「山水花と風を感じて未来へ」など、候補はいくつか考えておりますが、脱炭素と未来を感じさせるものにしていきたい。また、「ロゴマークも作っていただきたいですね。」

大屋 イメージすると、青空に白い雲が流れ、緑に囲まれたブレード(プロペラ)がゆっくりと回る。まさに風が織りなすですね。キャッチフレーズにぴったりだと感じております。

弊社といたしまして、御町の将来像を共有させていただきながら、皆さんとともにこれからも丁寧に歩んでいきます。本日は貴重なお話をありがとうございました。

町長 ありがとうございます。